

石神井川河川整備計画の概要

石神井川とは

石神井川は、小平市内の小金井ゴルフ場付近に源を発し、東京都北部をほぼ一直線に東へ流れ、JR京浜東北線王子駅の東側で隅田川に合流する、流域面積約73.1km²、延長約25.2kmの一級河川です。

石神井川は、三宝寺池、豊島園などからの湧水が流入しながら武蔵野台地を流れて板橋区まで至り、台地部の東端の飛鳥山公園付近で渓谷状になって北区の低地部を流れ隅田川に合流しています。



西東京市下野谷橋付近



練馬区都営南田中団地付近



板橋区加賀緑橋付近

流域の特徴

石神井川流域は、昭和40年代初期までに中・上流域、田柄川流域の市街化が急激に進み流域の約9割が市街化されています。そのため、雨水の貯留・浸透機能が低下し、雨が降ると流域から一挙に大量の水が河川や下水道に流入し、水害が頻発するようになりました。

これまでも、高度利用されている流域の市街地を水害から守るため、治水の安全性の向上に努めていますが、近年においても、頻発している集中豪雨により水害が発生しています。近年では平成17年9月、平成22年7月などの洪水で浸水被害が発生しています。



洪水による被害状況
北区溝田橋付近
(平成22年7月5日豪雨)

河川整備の目標

石神井川では、洪水や地震、高潮に対する安全性を向上すると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、石神井川全川です。

計画対象期間は、おおむね30年間としていますが、流域の社会状況等の変化や自然状況の変化、新たな知見、技術革新などにより、計画対象期間内でも必要に応じて改訂していきます。

河川整備計画の主なポイント

治水

・・・洪水、津波、高潮等による災害発生の防止又は軽減

<洪水対策>

河道に加え、洪水を貯める調節池を整備します。さらに、河川への流出を抑制する流域対策(1時間あたり約10mm規模の降雨相当)の効果を見込んだうえで、1時間あたり75mm規模の降雨に対応することを目標とします。

<地震水害対策>

将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震に対して、防潮堤の機能を保持し、津波等による浸水を防ぐために、耐震対策事業により防潮堤の耐震性を確保することを目標とします。

<高潮対策>

高潮による災害発生の防止又は軽減に対しては、昭和34年の伊勢湾台風と同規模の台風が東京湾及び主要河川に対して最大の被害をもたらすコースを進んだときに発生する高潮(A.P.+5.1m)に対して、安全であることを目標とします。



北区
あすか緑地付近
(高潮対策区間)



板橋区
栗原橋付近



練馬区
富士見池調節池



西東京市
向台調節池

環境

・・・河川環境の整備と保全

<河川環境の整備と保全>

河川周辺の街並みや緑地等と一体となった河川景観・親水空間の保全・創出に努めていきます。

また、石神井川は住宅密集地域の中を流れており、生物にとって貴重な空間であることから、魚類の生息と移動に配慮するとともに、水生植物等が生育・繁殖しやすい河川環境を形成し、本来の川らしい自然環境の保全・再生を目指していきます。



西東京市
弥生橋付近
(親水整備箇所)